

カンガルーシップ活動  
ネイバーサポートプロジェクト  
実施報告書

報告日	2019.9.25
学校名	筑波大学附属駒場中・高等学校
PTA会長名	中島 隆博

実施概要	実施活動名	「ともにいきる」講演会
	実施日時	2019.9.21(土)10:30-12:20
	実施場所	筑波大学附属駒場中・高等学校 オープンスペース
	実施目的	吃音について認知・理解を深める
	実施内容	本校卒業生でフリーライターである近藤雄生氏による「吃音」についての講話
	実施方法	講演会
	参加人数	高校2年生17名、保護者25名、卒業生等外部3名

報告事項	内容	<p>高校2年生及び保護者を対象に、本校の卒業生でもありフリーライターでもある近藤雄生氏をお招きし、「吃音」についてのお話を伺った。近藤氏は『吃音 伝えられないもどかしさ』の著者で、その中で、吃音があるために企業就職をあきらめ、フリーライターをしながら、症状が落ち着いていった経験をしている。講話では、それらのエピソードや、様々な吃音を抱えた方の困難や生き方等の本に記載されている内容に加え、本校で過ごした高校時代の話やそのときの苦労話、どのように克服しようとしたのか、等の具体的な話も語って下さった。</p> <p>今回のお話の内容は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 吃音の概要</li> <li>2) 私と吃音</li> <li>3) 伝えられないもどかしさ</li> </ol> <p>の3本柱であった。講演後は質疑応答。</p>
	結果	<p>本校生徒にとっては、先輩の実体験を聞くことにより、吃音がさらに身近な存在として認知・理解された。講話を聴く前には吃音は障害であるという認知も低く、日常生活でそれほど大変でもないと思っていた生徒も多かった。しかし就職を変更するほど影響力があるものだと聞いて、驚いていた。また、近藤さんの場合は、ご家族は『吃音 伝えられないもどかしさ』の本を出版するまで吃音で困っていることを知らなかった、という話を聞いて、身近な家族でさえも気づかない障害であることを知り、もしかしたら自分たちの身近でも困っている人がいるのかもしれないという想定ができるようになった。「吃音」とひとくくりにしても、一人ひとり症状も悩みも症状の寛解も様々であり、その対応はこれというマニュアルがあるものではない。一人ひとりの違いを認め合い、一人ひとりが自分らしく生きていける社会づくりの基礎になる話が聞け、貴重な機会になった。</p>
	所感	<p>校内に吃音の症状がある生徒が一定数いるが、本人の努力でわからないように言い換えたりしている。今回、近藤さんのお話を聞いて、吃音は周囲から見たら一見問題が殆どわからず症状の軽重と本人の悩みの大きさは比例しないこと、言語訓練や心理的アプローチ・環境の改善などの治療方法はあるが誰にでも効果的で確実な方法がないこと、他者が介在する障害であること、などのお話を受けて、だからこそ他者ができること、自分ができるとは何かを考える良いきっかけになった。</p>

添付書類	特になし
------	------